

# 日本外交文書

滿州事變 第一卷第二冊

外務省

## 序

近代日本の対外関係の展開を示す基本史料である「日本外交文書」は、外務省において昭和十一年に明治元年の第一巻を編さん以來、現在では大正十一年まで計一三五巻を出版するに至った。

さらに当史料館では、一般の要望に応えるため、大正期と並行して昭和期の外交文書を公刊すべく鋭意準備を進めてきたが、このたび「満州事変」に関する外交文書を発刊する運びとなった。満州事変は、日本外交史上のみならず、国際政治の上でも重大な転換期を画し、昭和期外交文書の嚆矢を飾るに相応しい歴史的意義をもつものと認められる。

激動の時代と称せられる昭和期日本の対外政策とこれをめぐる国際環境について、本書が正確な史実を提供し、内外の外交問題研究者の研究に資するとともに、今後のわが国外交政策の樹立にあたって何らかの寄与をなし得れば幸いである。

昭和五十二年三月

外務省外交史料館長

## 例言

一、本書に収録された文書は、原則として外務省所蔵記録で、編さんにあたって原文の改変、削除、簡略化等を行われていない。ただ、明らかな誤字などは訂正し、漢字はなるべく当用漢字を使用した。

二、満州事変関係の外務省記録は焼失したものが多く、本省への来電、来信については相当程度「写」により復原し得たが、本省よりの往電、往信は復原がきわめて困難であった。重要な往電、往信で採録されていないものが多いのはこの理由による。

三、(イ)文書はそれぞれの事項のもとに暦日順に配列し、事項かぎりの文書番号を付した。

(ロ)発電日付不明のものは、着電の日付で採録し、表題においては、8月20日とカッコを付して區別した。

(ハ)表題発電者の上に※を付してあるのは、該電報が他地発信のものを転電した電報であることを表示する。

※ 在奉天林総領事より  
幣原外務大臣宛

(ニ)本文中右肩にある(1)(2)(3)等の記号は、同一番号の電報が何回かに分割の上発電されたことを示すものである。

………帰還後当地ノ状況ヲ見ルニ………

(ホ)表題の発・受信者は初出の場合にかぎり姓名を表示し、次回よりは姓のみにとどめた。

在ハルビン大橋(忠一)総領事より  
幣原(喜重郎)外務大臣宛

四、各巻ごとに全採録文書の日付順索引を付した。満州事変 第一巻(昭和六年九月より昭和七年一月まで)は三冊よりなるので、日付順索引は第三冊に付記される。

## 満州事変 第一巻第二冊

### 目次

四 天津事件……………	一
1 天津事件と旧宣統帝溥儀の天津脱出……………	一
2 第二次天津事件……………	九八
五 錦州周辺の情勢と日本軍の錦州占領……………	一五八
六 国民政府との交渉……………	二八八
七 中国およびその他各地における排日状況……………	四九六

一 満州事変の勃発

二 満州事変勃発後の中国東北地方（満州）各地および北平の状況

1 東北地方の戦況ならびに居留民の動静

2 東北地方各地の政情

3 北平における反応

三 東北地方北部の形勢と日本軍のチチハル占領

（以上第一冊、既刊）

八 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

1 米国との交渉

2 国際連盟理事会における審議状況ならびに各国との交渉

付録 満州事変第一巻日付索引

（以上第三冊予定）

## 事項四 天津事件

（編注） 本項については、事項六にも関連文書が収載されている。

1 天津事件と旧宣統帝溥儀の天津脱出

1 昭和6年10月1日 在上海村井総領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

擁立運動に対する溥儀の動静について

上海 10月1日後発  
本省 10月1日後着

第五七一号（略）

一日ノ当地漢字新聞ハ北平来電トシテ宣統帝ハ坂西中将ヨリ満蒙王国組織ノ為赴奉方勧誘セラレタルモ某老臣カ右ハ日本カ国際関係上暫ク満蒙ヲ併呑シ能ハサルニ依リ一時皇帝ヲ傀儡トシテ利用セントスルモノナリトテ反对シタル為皇帝ハ躊躇シ始メ未タ赴奉スルニ至ラス云々ト報セリ御参考迄

公使へ転報シ北平、奉天、天津、南京へ転電セリ

2 昭和6年10月1日 幣原外務大臣より  
在天津田尻総領事代理宛（電報）

溥儀の租界外脱出阻止について

本省 10月1日後発

第七一号（極秘）至急

関東長官発本大臣宛電報コ第三八〇号ニ関シ

右事情貴官限り極秘ニ御含ノ上宣統帝ノ動静ニ付常ニ嚴重ナル監視ヲ加へ、我租界外ニ出ツルコトヲ極力阻止セラレ度

支、北平、奉天ニ転電セリ

3 昭和6年10月1日 幣原外務大臣より  
在天津田尻総領事代理宛（電報）

擁立運動に対し自重方溥儀に警告について

本省 10月1日後発

第七二号（極秘扱）

（二文書）  
往電第七一号ニ関シ